



# 核兵器なき世界の実現に向けて 伝えよう平和の尊さを

～広島平和記念式典に参列



広島・長崎に原爆が投下されて72年が経ちました。広島平和記念公園には様々な年齢・国籍の方々が訪れ、平和への祈りを捧げました。

被爆者の方たちの高齢化により、戦争体験者の生の声を聴く機会は、今後ますます少なくなっていくことでしょう。これからは戦争を知らない世代が学び、考え、次の世代に語り継いでいかなければなりません。

村では、昭和63年に「非核平和美浦村宣言」を行い、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代へ語り継ぐための活動を続けています。今年もその一環として、小学生親子3組と非核平和美浦村宣言推進協議会代表、村議会議員代表、教職員代表等の計11名が、広島市の原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（平和記念式典）に参列しました。

ここでは、参加者が広島派遣を通して感じた、平和への思いを語って頂きました。《敬称略》



『げんしばくだんがおちるとひるがよるになって人はおばけになる』これは被爆当時に、小学3年生の女の子が書いた詩です。ピカッと光り熱で上昇気流が発生し、土砂等が舞い上がって暗くなり、人や動物等あらゆる物が数千度の熱で焼き溶かされた状況を書いたものです。皆さんも想像してみてください。今回、議会代表として事業に参加させて頂きましたが、式典への参列、資料館の見学や被爆体験講話の拝聴を通し、改めて被爆国日本は核兵器廃絶に向け、国内外に対し最大の努力をすべきであると思いました。特に、国連で制定された核兵器禁止条約には積極的に署名すべきであると感じました。《美浦村議会議員 下村 宏》



今回、初めて広島平和記念式典に参加する機会をいただき、核兵器廃絶という言葉の重さを改めて実感することができました。72年前の8月6日に広島で何が起きたのか、今なお苦しみの中で生活している被爆者の方々の講話、当時の子供たちの詩の朗読をお聞きし、その思いに少しでも近づくことができたことは有意義な体験となりました。広島の街は外国の方々の姿も大変多く、被爆体験講話にも多数参加されていたことも印象的でした。

事実を知り二度とこのようなことを起こしてはならないという決意を人間として持ち続けたいと思います。《大谷小学校校長 小林 知永》



まずは、非核平和美浦村宣言推進協議会代表として広島平和記念式典派遣事業に参加させて頂き、貴重な体験をすることができたことに感謝いたします。

私が今回特に印象に残ったことは、被爆体験講話および被爆体験記朗読会に出席して、被爆者の生の声を聞いたり、被爆者が書いた詩の朗読を聞いたことにより、原爆による地獄のような悲惨さ、そして、想像を絶する苦しみを少しでも理解できたことです。核兵器のない平和な世界を発信し続ける被爆者の方々の思いを真剣に受け止め、私は広島での体験を身近な人々に広めていきたいと考えます。  
《美浦村区長会会長 殿岡 勝夫》



私は初めて広島に行き、いろいろ勉強することができました。

たった一発の原子爆弾で、建物はつぶされ、人々はひどいやけどをあい、約16万6千人が2～4カ月以内で死亡してしまいました。『人々は水を求めて川へ行くが、そこは、熱くて川へ飛びこみ死亡してしまった人たちの死体でうめつくされていた』このような悲しい出来事が72年前にあったと思うと、少しこわいです。私は原爆くを経験したことはありませんが、どれだけひさなことだったかは分かりました。なので、この世界から核兵器がなくなってほしいと思いました。  
《安中小学校6年 貝塚 千恵実》



平和記念資料館では、たくさんの遺品や写真、体験記などを見ることができました。

72年前の8月6日に、たくさんの親が、大切な子供を失い、たくさんの子供が親を失った。そのことを思うだけで、涙が止まりませんでした。亡くなった子供の焼け焦げた服を、自分が亡くなるまで、大切に手元に置いておいた母親の悲しみは、どれほどだったかと心が痛みました。

唯一の被爆国として、核兵器の非人道性と、核兵器廃絶を、もっと訴えていってほしいと思います。  
《安中小学校保護者 貝塚 眞澄》



72年前の8月6日8時15分に、世界で最も非情な物である核爆弾が広島に落とされた。この事実は知っていたが理由までは知らなかった。今回の体験でまず、核爆弾は日本とアメリカが戦争をしていたときにアメリカが落としていたと分かった。そして、その核爆弾は地上から600m上空で爆発した。しかしその距離があっても半径2kmを消しさった。この事を聞いた時はびっくりした。600mも離れているのに半径2kmを消しさるのかと。この事をなかったことにすることは出来ない。私達が出来ることは、この事実を確実に伝えていくことである。  
《大谷小学校6年 浅見 拓飛》



この度、広島平和記念式典参列という貴重な体験をする機会を頂き、誠にありがとうございました。戦争・平和・被爆・追悼等々、72年前に起きた惨劇と、その後の歳月を自分の記憶にも改めて焼き付けた3日間でした。決して遠い昔の出来事ではなく、まだまだ元気になっている、私たちの両親、祖父母の世代の方々が見てきた、経験してきた「戦争」。この惨劇が人々の記憶から消えないように、これからの世代の人々に伝え続け、世界平和を呼びかけていく事が、今を平和に過ごしている私達がしていくべきことではないかと、強く感じました。

《大谷小学校保護者 浅見 圭子》



ぼくは、今まで戦争というものは昔の出来事としか考えていっていませんでしたが、初めて広島に行き広島平和記念式典に参加して、戦争を身近に感じ、考えることができました。

まず、原爆ドームを見たとき、恐ろしくとても悲しい気持ちになりました。

そして、おどろいた事は、アメリカが核兵器を落とした理由です。ぼくは、アメリカが確実に勝つために落としたと思っていました。ですが、早く日本に戦争をやめさせたいためでした。ですが、どんな理由でも核兵器はだめです。これからも広島の悲劇を多くの人に伝えていきたいです。  
《木原小学校6年 野口 真拓》



一発の原爆で、一瞬の間に数キロが焼け野原になってしまうという核兵器の恐ろしさを知りました。核保有国は「核兵器なき世界」に取り組んで更に前進させなければなりません。戦争を知らない若い世代は、この悲惨な過去を風化させない様、語り継がなければならないと思いました。被爆体験講話では、被爆者だけにしか分からない話を聞き、非常に胸が熱くなる思いになりました。今も、後遺症に苦しんでいる人が何人もいると思うと胸が痛みます。被爆者の証言を聞き、きのこ雲の下で何が起こったかを知り、核兵器廃絶への願いを受け止め世界中に「共感」の輪を広めていただきたい。  
《木原小学校保護者 野口 保夫》